

ホームホスピス普及のための調査研究報告

1. ホームホスピス支援基金設立のための調査
2. 運営に関するガイドライン作成（基準改訂）

一般社団法人全国ホームホスピス協会

事務局

2024年3月30日

1. ホームホスピス支援基金設立のための調査

(1) 専門事業者とのミーティング（情報収集）

① STYZ 株式会社 高村 大夢 氏

日 時：2024年10月22日（火）11時～12時

方 法：ZOOMによるオンラインミーティング

担当者：黒岩雄二

（概要）

STYZ 株式会社は、2016年に Syncable という非営利団体に向けたオンライン寄付プラットフォームを開設し、ここ数年は、クラウドファンディングへの取り組みも実績がある。

また、2024年には、COPOLA という企業の寄付活動をサポートするサービスも立ち上げ、企業による非営利セクターへの支援にも取り組み始めたため、当協会のような中間支援団体が企業寄付を受ける可能性があるかについて、意見交換を行った。

（意見交換の結果）

COPOLA については、まだ開始間もないため、実績に基づいた事例はないが、一つの団体に継続的に企業が寄付をするのは難しいのではないか。団体のある事業に対して、複数の企業からスポットで支援してもらうのは支援が得られやすい。その場合は、企業活動に関連のある社会活動にとり組んでいる団体の事業が対象になりやすく、またそれは支援先の変化が分かりやすいことも条件となる。

中間支援団体の活動は、支援先のターゲットに直結していないので、共感を得られにくいのも支援につながらない理由と考えられる。

STYZ 社は、マンスリーサポーター制度を早くに取り入れているので、敵機的な寄付を受けやすいシステムはあるが、ほとんどが個人寄付である。ターゲットが分かりやすいプロモーションで個人寄付をベースにした定期寄付を検討する方法もあると思う。

企業からの支援を得る方法については、STYZ 社としても取り組んでいきたいテーマと考えている。



② READYFOR 株式会社 出口 義隆 氏、鳥谷 雄治 氏

日 時：2024年12月5日（火）15時～16時

方 法：ZOOMによるオンラインミーティング

担当者：黒岩雄二

(概要)

READYFOR 株式会社は、2014 年に創立されたクラウドファンディングの国内大手の企業で、いくつかのホームホスピスでも資金調達のために利用してきた。最近では、継続的に資金調達が必要な団体のための戦略設計や実行伴奏を行う「ファンドレイジングサービス」も提供しており、基金の原資としての継続寄付の可能性について、意見交換を行なった。

(意見交換の結果)

クラウドファンディングは、スポット的な事業や災害支援には向いているが、定期的な寄付の事例はまだ少ない。しかし、毎年時期を決めて支援を呼びかける団体も増えてきており、活動を長期にわたって認知していただき、支援していただくためには、有効かもしれない。この場合も、支援元のほとんどは個人であって、企業が定期的に支援を継続するためには、内部の決済システムの関係などからもなかなか難しいのではないか。

企業の取り組みとしては、社員に呼びかけて社内募金のような形で寄付を集めるプロモーションがあり、その場合は個人寄付がベースとなるので、支援先の幅は広い。また、一つの取り組みに対して継続して寄付をする行動が定着しやすいので、一つの選択肢としては考えられる。しかし、この場合もいかに共感を得られる提案ができるかという点がポイントである。

(まとめ)

寄付（支援）をサポートする2企業との意見交換から見えてきたことは、中間支援団体の活動に対して、企業から直接定期的な支援を得ることは難しいが、その支援が最終的にどこにどのような変化をもたらすのかについて分かりやすく提案することで、関心を持っていただく可能性はある。

また、企業の社員に対して、企業内募金のような形で支援を呼びかける方法も考えられる。この方法はホームホスピス宮崎でも実施した事例があるが、スポット的な事業に対する支援であり、継続的な寄付への呼びかけは工夫が必要と考えられる。

マンスリーサポーターのような定期的な支援を得る仕組みもシステム化されてきているが、ほとんどが個人寄付であるため、個人寄付をベースとした支援の呼びかけについても改めて検討する必要があると考える。

(2) FRJ2025への参加による調査

日 時：2025年1月18日（土）9時30分～20時

場 所：TOC有明（東京都江東区有明3丁目5番7号）

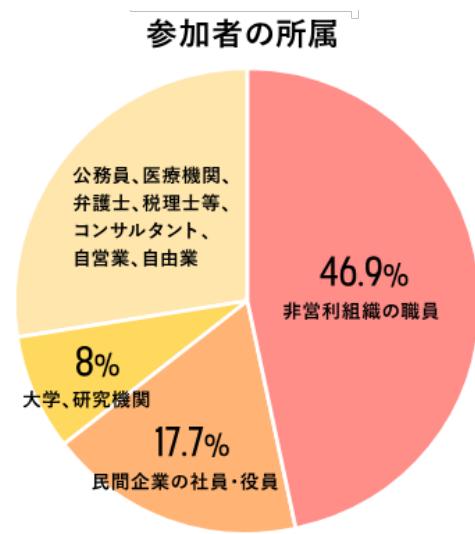
担当者：黒岩雄二（認定ファンドレイザー）

ホームホスピス支援基金を設立するための調査として、ファンドレイジングのイベントである「FRJ2025」へ参加した。

このイベントは、非営利団体や企業、大学、行政、財団などが参加する国内最大のファンドレイジングカンファレンスで、今年で15回目となる。

非営利団体の資金調達事例や資金調達に関する最新の情報などが得られる貴重な機会であることと、ファンドレイジング業界の人的ネットワークを強化することも目的として参加した。

当時は、対面イベントとして、7ページの当日スケジュールに掲載された23のセッションや30社近い展示があり、その他にもオンデマンドで視聴できる50以上のコンテンツが用意されている。



<https://frj.eventos.tokyo/web/portal/508/event/11756>

今回は、以下のセッションに参加し、協賛ブースで中間支援法人、クラウドファンディング会社、ファンドレイジングサポート企業との意見交換を行なった。

「システムチェンジに挑む「本気の」経営者たち」

企業経営から非営利セクターへの移行や非営利セクターの支援を企業として行なっているアントレプレナーやコンサルタントによるセッション。自分たちがやりたい社会貢献活動を方向性が近似している非営利セクターへ支援、または協働することによって実現している登壇者の話は大変参考になった。

特に、株式会社ミダスキャピタルの吉村氏の話は、企業と非営利セクターの「協働」の新しい形として、ノウハウの共有、人事交流、資金提供という役割分担を明確にすることで WIN-WIN の関係性を構築している事例をもとにしたもので大変興味深いものであった。



「認定ファンドレイザーは地域の役に立つか？」

認定または準認定ファンドレイザー資格を持つ有資格者限定セッションであったため、情報収集先との交流も含めて参加した。歴史ある神社の復興のためにクラウドファンディングを含め、広く支援を募る手法についてのセッションであった。短時間であったが多くの有資格者と繋がり、連絡先などの交換をすることができた。

「社会福祉ファンドレイジングの最前線を学ぶ！つながる！」

社会福祉系のファンドレイジングについて、多くの寄付を集めて事業を運営している「認定 NPO キッズドア」の取り組みや支援をマネージメントしている一般社団法人 COMMNET の取り組みを学んだ。支援者にターゲットがしっかり見えていることが重要だと再認識した。

「NPO の価値とは何か？」

社会起業家、NPO 当事者、ファンドレイザーによるセッションで、NPO の価値をどのようにアピールし、支援につなげるかという点について言及したセッションであり、自分たちの社会的な価値をまず再認識することが重要であると感じた。

「交流会」

セッション終了後の交流会にも短時間参加し、講師やファンドレイザーとの意見交換などを行なった。



「協賛ブースツアー」

中間支援法人、クラウドファンディング会社、ファンディングサポート企業の出展者を訪問し、最新情報の収集を行なった。

・ファンドレックス株式会社

中間支援組織が基金を設立する方法について情報収取を行なった。

・コングラント株式会社

マンスリーサポートシステムについて情報収集を行なった。



・STYZ 株式会社

クラウドファンディング、マンスリーサポートシステム、企業寄付サポートシステム COPOLA について情報収集した。

・READYFOR 株式会社

マンスリーサポートシステムおよび企業協賛の方法について情報収集した。

STYZ 社及び ReadyFor 社とは、今後も定期的な意見交換を行なって、中間支援組織のが企業寄付を得ることのできる仕組みなどを検討していくこととしている。



・(公財) 日本非営利組織評価センター

グッドガバナンス認証の更なる活用（寄付募集など）、グッドギビングマーク制度の概要について調査と意見交換を行なった。

・全国こども食堂支援センターむすびえ

中間支援組織が基金を設立して、成功している代表的な団体であり、方法について情報収取を行なった。この団体の場合



は、支援先が「こども食堂」であり具体的に支援金が何に使われるかが明らかなるため、支援しやすいということと、全国の拠点数（こども食堂）が約9700カ所と膨大であることから一般的によく知られており、各地域にとりまとめの拠点もあり長期に渡ってシステム化が図られてきている。

全体を通して、改めて感じたことは、福祉分野で特に高齢者が主な対象の場合、社会制度が用意されているという印象が強く、個人や企業の支援を受けにくい分野であることと、中間支援団体は、その先の最終支援者が見えにくく、寄付の動機を高めにくい対象であるということであったが、そのことについては再認識した上で、支援の対象の明確化と同様な社会課題を持っている企業等の再調査、また個人寄付の可能性などについても改めて検討することとした。

また、寄付による基金設立の可能性が見出せない場合は、自主事業である「ホームホスピスの学校」の充実と拡大により、収益の一部を基金に割り当てていくことも現実的な方法として検討することとした。

Schedule

当日スケジュール

15th Anniversary
FUNDRAISING JAPAN
FRJ2025
ファンディング・日本

1.18土
会場: TOC有明

9:30▶11:00 (90分)	FRJ2025オープニングセッション WEST 20階 ファンディングで社会を変える～意思あるところへ、意思あるお金を。					
休憩(15分)						
部屋番号	W-1	W-2	W-3	W-5	E-1	
11:15 ▼ 11:45 (30分) ランチタイム セッション	寄付月間をファンディングに最大限活かす方法	プレゼン力向上ゼミ～トッププレゼンターからその極意を学ぶ	NPO・企業・学校がつながる「from Me」と「寄付の教室」オープンギャザリング	交流スペース		
休憩(15分)						
12:00 ▼ 13:10 (70分)	寄付市場拡大のカギを握る～『認定NPO』が活躍する未来をみんなで考える <small>Special Partner リタワーズ株式会社</small>	システムチェンジに挑む「本気の」企業経営者たち	マンスリー寄付、停滞期の乗り越え方～サポーター1万7500人を実現した3年間の軌跡	地域の困りごとを、地域のお金で。～遺贈寄付の地産地消を考える～	高校生CFO(最高未来責任者)と考える、若者とNPOの「これから」作戦会議!	
休憩(30分)						
13:40 ▼ 14:50 (70分)	枠を超えるリーダーシップ：ビジョンを広げ社会を変える力 <small>FRJ2025メインパートナー 株式会社ファンドレックス</small>	課題解決の「知」の境界が溶ける世界	チャリティーディナー成功の鍵とサイレントオークション	認定ファンディングは地域の役に立つか？その実力が試されてしまった件【有資格者限定】	ファンディングの哲学～原始仏教哲学から考えるファンディングの可能性	
休憩(45分) FRJ cafe 協賛ブースツアー@交流スペース						
15:35 ▼ 16:45 (70分)	若者と地域をつなぐガバメントクラウドファンディングの役割と可能性を探る <small>Special Partner 株式会社トラストバンク/ふるさとチョイス</small>	誇りある金融が社会を、地域を変える～社会的金融の未来	NPO業界に知つて欲しい。小さな組織への光のあて方・価値の伝え方	社会福祉ファンディングの最前線を学ぶ！繋がる!!	「越境体験」をヒントに考える、ファンディングのキャリア	
休憩(30分)						
17:15 ▼ 18:25 (70分)	地域内資金循環2.0！多様な資金で加速するローカルインパクト最新事例	寄付×学校で教育が変わる。多様な学びを支えるファンディングの力	「NPOの価値」とは何か？	「お金ください！」って言えますか？心のブレーキの見つけ方	カードゲーム 「from Me」 体験会 【事前参加登録制】	
休憩(15分)						
18:40 ▼ 20:00 (80分)	FRJ大交流会					

2025年1月6日現在 ※セッションタイトル・登壇者は予告なく変更となる場合がございます。予めご了承ください。

2. 運営に関するガイドライン作成（基準改訂）

ホームホスピス運営に関するガイドラインとして、「ホームホスピスの基準」の改訂に取り組んだ。

（1）事務局において、9月に「協会の機能と役割」を見直し、暫定版を作成

【見直し箇所】

① レビューの実施内容

レビューの実施方法（オンライン）の追加等

② 各種研修会の企画・実施

全国合同研修会をホームホスピス全国大会に変更。ホームホスピス実践者育成塾の対象者にホームホスピスの学校受講生を追加等。

③ ホームホスピスの人材育成

リーダー養成研修の説明をホームホスピスの学校についての記述に差し替え。

④ スキルアップ研修

オンライン研修の追加。

⑤ 新たに開設するための支援

組織整備、物件探し、改修工事など具体的な相談支援、助成金の申請に関する助言などの具体的な内容を追記。

⑥ ホームホスピス設立までの流れ、ホームホスピスの解説まで

この2項目を統合して、全体的に見直し。

⑦ 準会員表記の削除

準会員制度の廃止に伴い削除



（2）ケアの内容や運営について、検討委員会を設けて協議し改訂版を完成

【検討委員会 1】

日 時：2024年12月6日（金）13時～16時

会 場：神戸なごみの家・キャンサーサポートセンター

参加者：市原美穂、松本京子、竹熊千晶、古野多鶴子

【検討委員会 2】

日 時：2024年12月17日（火）17時～19時

会 場：オンライン（ZOOM）

参加者：市原美穂、松本京子、竹熊千晶、金居久美子、古野多鶴子、黒岩雄二

この検討委員会の後、2025年3月9日開催の理事会までにメール等で修正確認を行い、当該理事会において最終確認を行なって以下のとおり改定することで決定した。

【見直し箇所】

① 住まいであること

ナースコールの削除、住まいの良さに関する記述の追加 等

② 「とも暮らし」という暮らし方

「住人とスタッフが食卓をともにしている」→
「住人とスタッフが共に生活しているような雰囲気がある」等

③ スタッフの人材育成

採用時の教育に関する記述や必須研修（ハラスマント、虐待防止、BCPなど）の具体的な記述の追加 等

④ 安全管理

事業継続計画（BCP）の追加、「ケア中の事故を予防するための活動」の追加、事故対応に「マニュアル作成」「インシデントレポートの共有」などを追加。災害時の備えについての記述の追加 等

⑤ 組織づくり

ガバナンス強化のために「定款」に沿った運営の記述を追加、内部監査についての記述の追加 等

⑥ ホームホスピス協会の役割について、再度見直し

支部研修会の役割が、地域住民向けであることを明記、スキルアップ研修会の具体的な目的を明記 等

